

## 「吊いの山が消える」

八本松スマートICを造る工事が進行中です。幹線道路から外れた場所なので知っている会員は少ないので写真で紹介します。山を崩してICを造るとは思わなかったのですが、この山は吊（とむら）いの山だったのです。山頂には古墳とその石棺を転用したと思われる中世の古墓がありました。工事に先立って実施された発掘調査では、江戸時代と推定される火葬骨も出土しました。約1,500年間連続と続く吊いの場だったのです。発展を続ける本市にあっては破壊と建設は日常茶飯事なのですが、今回紹介する工事のもそのうちの一つです。神聖な場所が消えることに一抹の侘しさを覚えながら哀悼の意を表したいと思います。

合掌（写真と文 船越雄治）



吊いの山を崩して八本松スマートICを造る工事が始まる。（左上 令和6年4月28日、右下 5月25日 撮影）



頂上部にあった地面や古墳・古墓は夏に消失し、山を崩す工事は一層進む。

（令和6年12月14日 撮影）

## 新たな年を迎えて

会長 赤木 達男

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は当会の研究活動ならびに会運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

とりわけ、「創立50周年」を記念する『創立50周年記念誌』刊行と「県史協大会」という二つの記念事業を成功裏に終えることができましたことに、会員はもとより、物心両面にわたり惜しみないお力添えをお寄せくださいましたすべての皆さまに、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

昨年末、核兵器廃絶と恒久平和を訴え続けてこられた日本被団協がノーベル平和賞を受賞されました。また、日本の伝統的酒造りがユネスコ無形文化遺産に登録されました。

これら私たち郷土史研究活動と深く関わる慶事、皆さまとともに喜び合いたいと思います。

さて、「創立50周年記念事業」を通して、半世紀にわたる活動の軌跡と諸先輩の功績にあらためて学ぶことができ、また16名の新会員を迎えることもできました。

激動と変化の50年間、社会と人びとの生活スタイル、意識構造は大きく変わりました。急速に発展を遂げてきた東広島の市域も広がり、まちの様相も一変しました。

こうした中で重ねられた郷土史研究活動。課題研究に挑み、古文書を紐解き、古道を辿り遺跡めぐりに汗をかき、「史跡・文化財を見て歩く会」や「郷土史展」を企画し、創刊以来一号も欠けることなく『郷土史研究会ニュース』の発行を続けられた「50年の歩み」。

ともに楽しさや充実感、満足感や達成感を味わい、ときには焦燥感や悔しさをも共有しながら、一日一日とつながってきた「50年の歩み」は大きな財産であり、次代への道標です。

### 過去・現在・未来—つながり、つなぐ—

生成AIなどによる影響は予測不可能なほど経済・社会を変貌させると言われています。こうした中であって、「今」につながる歴史を刻んだ人びとの営みの痕跡やつづられた記録、連綿とつながる有形・無形の伝統文化を調査・研

究し、保存・伝承する活動はますます重要になってきます。

初代会長の景山英俊さんは、『郷土史研究会ニュース』創刊号（1974年8月）で、そうした郷土史研究活動は、「古人との共にある境地であり、それがひいては今の生き方に思い及ぶものであることは間違いないことである」と仰っています。また、内的に深める研究活動も広く郷土を知ってもらう啓蒙活動も、「いずれも郷土への理解と愛着を深めるためのものであり、今日及び将来のわれわれの生活を確かな道であることを確信いたします」と述べられています。

論語の一節、「温故知新」とイギリスの歴史家、エドワード・ハレット・カーの言葉、「過去は現在の光に照らされて初めて知覚できるようになり、現在は過去の光に照らされて初めて十分に理解できるようになるのです」と重なります。

「創立50周年」記念事業を経て、思い新たに過去・現在・未来とつながり、つなぐ郷土史研究活動を皆さまとともに進めたいと思います。

### 新たなステージへの抱負

その活動で心がけ、追求したい課題の第一は、次代を託す子どもや若者に郷土の歴史や文化に関心を持ってもらえる活動です。小中高大学との連携や講座、イベント、ワークショップなどの創意・工夫です。

第二に、住民自治協議会や地域センターなどの皆さんとの連携を通じた地域に親しまれ、地域に密着した活動です。

第三に1万人に迫ろうとしている外国籍市民の皆さんに参加していただける活動です。「東広島国際フェスタ2024」に参加した外国籍市民の「知りたい情報」で最も多かったのが「歴史・文化」、続いて「交流機会」でした。

第四に、市内各町の郷土史研究会との交流・連携の強化です。東広島市郷土史研究会連絡協議会（市史協）で交流を重ねていますが「新市誕生20周年」を迎える今年、「史跡・文化財を見て歩く会」を初めて新市域・安芸津町での開催を準備しています。

第五に、多面的な広報活動です。郷土史ニュースやホームページ、SNSなど自前ツールの充実とメディアの皆さんのお力をお借りして広報活動を強化したいと思います。

そして第六に、新たな会員を迎え組織と活動を次代へとつなぐための活動です。とくに若者層への魅力発信、財政基盤強化などの検討を進めます。

### 1月例会のご案内

日 時 1月25日(土) 13:30～  
場 所 市役所北館 市民協働センター  
発 表 「志和の標柱注連柱」

今田幸博氏

こうした東広島郷土史研究会の活動が、会員の皆さまの楽しく充実した日々につながり、歴史と文化の伝承と遺跡・史跡の保存と活用、地域の活性化と東広島市の魅力度アップ、内外からの来訪者が増えることにつながり、東広島市の持続的発展の一助になると確信しています。

会員の皆さま、私どもに惜しみのないご支援ご協力をお寄せくださっている皆さま、本年も何卒よろしくお願い致します。

## 12月例会報告

12月例会・忘年会は、12月13日(金)10:30～ホテル ヴァンコーネル 3F 白竜湖で行われ24名が参加した。

例会は、去る11月9日(土)に開催した「第46回県史協東広島市大会」を振り返り、意見交換を行った。

冒頭に、船越雄治さん、進藤真由美さん、山名恭代さんが撮りためた数百枚の写真を編集し、時系列に並び替えた写真を鑑賞した。案内・受付、進行・運営、アトラクション、総会、講演会、昼食配膳、パネル展、物品販売、図書販売、午後の臨地研修参加の人々の表情は明るく生き生きと記録されていた。また、各係の仕事も会員のみなさんがテキパキと動きスムーズに行われたとの報告であった。陰で支えて頂いた広島大学の先生方、市教委文化課、ブランド推進課、協賛団体、ボランティア(高校生・大学生・ボランティアガイドの会)の人々にも感謝である。県史協東広島市大会は成功裏に終了した。

例会終了後は忘年会に移った。今年の料理は例年よりグレードアップしたメニューで和気あいあいと食事が進むなか、県史協大会アトラクションで美声を披露した、藤田末男さんにリクエストの声がかかり、プロ級の「米とぎ唄」に聴き惚れた。また、毎年忘年会のお世話をしてくださる大森美寿枝さん作成の「令和6年の出来事」、「新語・流行語大賞」、「ベストセラー本」などの紹介を受け1年間を振り返った。

<例会参加者(敬称略)> 赤木達男、今田幸博、國松宏史、福村博士、蔵楽知昭、平川平介、船越雄治、国永昭二、吉田泰義、三嶋昇、神本良彦、木村浩男、光田清志、吉原澄子、蔵楽恭子、谷本操、西本嘉住、進藤真由美、梶津利江、山名恭代、重竹訓江、神笠美保子、藤田末男、大森美寿枝(以上24名)

## 第5回昔の道探訪会

### 『福富町下竹仁』

吉田 泰義

令和6年11月20日に4人でコースを下見、11

月27日に12人が久芳の福富ダム道の駅に9時集合、下竹仁しゃくなげ館より西の郷を北へそして南も探訪した。

### 1、教育者[伊藤国次(ト羊)と静学館]

幕末の享和年間(1801年～)伊藤要助が寺小屋を開き、息子の勇助が継ぎ、そして時代は明治となり甥の国次が私学校を開設して青年教育を実践した。明治6年(1873)からは公立学校に奉職して表彰され退職した後、明治22年(1889)私立静学館の開設が認可され2階建ての校舎を建て伊藤ト羊と名乗って豊田郡の北を中心に近隣村々の青年約三千人が学んでいる。その功績を称え壽碑が大正2年(1913)に宮崎神社に建立され、大正4年(1915)ト羊が亡くなり、壽碑は昭和25年(1950)竹仁小学校に移されたが今は廃校となり忘れ去られている。



伊藤家、静学館跡、墓地

### 2、観音山法傳院長圓寺その他

西の郷を北に歩き山沿いの浄土真宗本願寺派・長圓寺に参拝。参道には紅葉や黄葉が鮮やかで、山門を入ると正面に本堂(本尊は阿彌陀如来)、境内の見事な松にカヤラン(榲藍)が垂れ下がるように生育している。着生植物で春に10ミリ程の黄色の花を咲かす。鐘楼や小堂から庫裏や里の風景など心楽しめた。観山(みやま)住職兄弟で寺を守られている。正見(しょうけん)さんは元国立天文台台長で今は広天文台館長として活躍されている。寺の下の脇道に昔の道の道標も残っていて話に花が咲き、それより南に一気に下って竹仁小学校跡へ上がり伊藤ト羊先生壽碑に直面し、しゃくなげ館で昼食し充実した探訪会であった。

### 新春登山のお知らせ

日時 1月9日(木) 9:30～  
場所 白鳥神社(白鳥神社駐車場から徒歩)  
集合場所 古民家レストラン「山城」駐車場  
(高屋町郷158-1)

※終了後、「山城」にて新年互礼会を行います。  
申込み 福村さん 080-2912-6741まで



メンバーの年齢差は40歳



竹仁小学校跡の伊藤ト羊先生壽碑



福富小中学校ホームページより

### 3、自然と人が交流する福富町の昔の村

上戸野・久芳・下竹仁・上竹仁、山沿いの昔と今の道、一期一会の人生を楽しみながら探訪会を楽しんでいる。

#### 新規会員 齊藤 弘樹さんのメッセージ

みなさま、初めまして。

この度、入会した齊藤弘樹と申します。私は歴史が大好きで時間があれば地域の史跡を散策しております。郷土史研究会で知らないことを教えていただきながら、歴史をもっと深く学びたいと考えております。

現在は人事交流で広島県職員として勤務しておりますが、職業は中学校社会科の教員です。時間を見つけて参加したいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

## 《新規会員紹介》

松浦 留美穂（高屋町）

### 【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記QRコードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

## グループ研究会ご案内

### 第293回 古文書研究会

と き 1月21日(火) 13:30～  
 ところ 市役所北館 市民協働センター  
 テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑩  
 ※古文書研究会は新規会員募集中です！  
 見学だけでもOKです。ぜひお越し下さい。

### 石造物研究会

1月はお休みします。

### 第189回 四日市町並研究会

と き 1月13日(月) 13:30～  
 ところ 西条本町歴史広場 コジマヤ土蔵  
 内 容 「酒都西條」とりまとめ

### 第6回 昔の道探訪会（旧山城探訪会）

と き 1月15日(水) 9:00～  
 集合場所 高屋町白市観光駐車場  
 探訪場所 高屋東を歩き白市で昼食会  
 参加申込 昼食を予約します（大森）

### 原爆資料保存研究会

と き 1月16日(木) 14:30～  
 ところ 市役所北館 市民協働センター  
 内 容 被曝80周年記念事業の内容検討

### 1月の図書室開放

と き 1月17日(金) 13:00～15:00  
 ところ 高屋教育集会所

## ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第605号

令和7年（2025）1月5日発行  
 編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235  
 E-mail:akata@akata.dion.ne.jp

事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234  
 E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303  
 E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp